

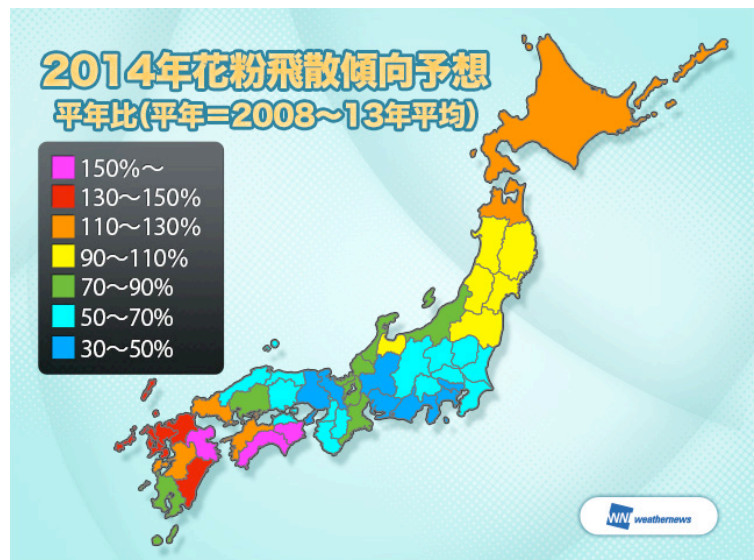
ウェザーニューズ、花粉飛散傾向の中間まとめ発表

花粉飛散量、関東は昨シーズン比8割減を確認、シーズン全体を通して5割以下の予想
～関東のヒノキ花粉は今がピーク、昨年より約一週間早くシーズン終了へ～

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁）は、今後も飛散が見込まれる花粉に対して十分な対策を取っていただくため、2014年2～3月における花粉飛散数及び、今後予想される飛散傾向を発表しました。発表は、全国約1,000箇所を設置している花粉観測機「ポルンロボ」にて計測された花粉飛散量をまとめた数値と、今後の飛散見通しです。本発表は、スマホアプリ「ウェザーニューズタッチ」や携帯サイトから確認することができます。

◆2～3月の花粉飛散傾向のまとめと今後の飛散傾向

この冬も強い寒気が流れ込んで、1月は厳しい寒さの日が多くなりましたが、1月下旬には寒さが緩み九州や関東地方など、早いところではスギ花粉が飛散し始めました。ただ、2月に入ると再び強い寒気が流れ込み、さらに南岸低気圧の影響で太平洋側では記録的な大雪となった日もありました。この寒さや雪の影響を受けたため、花粉飛散の本格化が遅れ、例年は飛散開始の1週間～10日後に本格的な花粉の飛散が始まるところ、関東や九州の一部では、飛散量が比較的少なく本格的な飛散にならないまま、20日～1か月前後が経過しました。



2月下旬になると西・東日本で一時的に寒さが緩み、特に九州や四国太平洋側など、寒気の影響を比較的受けにくかったエリアでは、2月下旬から飛散量が多くなり、3月上旬にかけてスギ花粉のピークを迎えました。またこの時、平年を大きく上回る暖かい日があったため、西日本では飛散開始直後に本格的な飛散シーズンとなった所もあるなど、西・東日本の多くのエリアで、3月上旬から本格的にスギ花粉が飛散し始めました。関東～中国地方の広いエリアにおけるスギ花粉のピークは3月中旬～下旬で、現在はスギ花粉の飛散量が少なくなってきています。東北地方では、3月下旬からスギ花粉の飛散量が増加し、現在ピークとなっています。また、暖かくなるにつれてヒノキ花粉の飛散量が増え、現在、西・東日本ではヒノキ花粉のピークの時期となっています。九州など早いところでは、すでにヒノキ花粉のピークを越えつつあり、スギ・ヒノキ花粉のシーズンも終盤となっています。

今後、九州以外の西・東日本エリアでも、4月後半にはヒノキ花粉のピークを越え、次第に飛散量が

少なくなっていますが、敏感な方は5月はじめ頃までは引き続き注意が必要です。一方、東北地方では4月おわり頃まではスギ花粉が大量に飛ぶ日がある見通しですので、万全の花粉対策が必要です。

3月31日までのスギ・ヒノキ花粉の飛散量を集計したところ、関東～中国地方の広いエリアで、今シーズンの花粉飛散量は昨シーズンよりも非常に少ない結果となりました。ただ、九州や四国の一部では、昨シーズンと同じ、もしくは昨シーズンよりも多い飛散量となっている所もあります。この結果から、今シーズンは関東～近畿地方を中心に、昨シーズンよりも非常に少なく、30%前後の飛散量となるところも出てきそうです。また、平年（2008～13年の平均）と比べても関東～近畿・中国地方を中心として、平年の40～70%となる予想となりました。ただし、四国や九州では昨シーズンの3月末までの飛散量よりも多くの花粉が飛んでいるところがあります。さらに、九州、四国、東北地方を中心に、平年以上となるところもあることから引き続き注意が必要です。

北海道でも函館付近など道南エリアの一部で、スギ花粉が飛散しています。飛散量は本州よりは多くないものの、5月はじめ頃までは注意が必要です。また、今後は次第に暖かい日が増えて、4月下旬頃からシラカバ花粉が飛散し、特にゴールデンウィーク頃からは飛散量が多くなる予想です。昨シーズンよりは少ない飛散量となるものの、平年よりやや多い飛散量となる予想であるため、油断せずに早めに対策をしておく良さそうです。

～花粉症の症状について～

症状に関しては、2月1日～3月31日までの症状報告（非常にツライ、ツライ、ややツライ、大丈夫の4つから選択し、毎日報告してもらった）を見ると、症状が出ている方のうち「非常にツライ・ツライ」を報告した方の割合は、全国的には昨シーズンよりやや少なくなっている程度で、九州や四国などを中心に昨シーズンより増えているエリアもありました。3月末までの飛散量では、昨シーズンよりもかなり少ないエリアが多かった割に、症状はあまり緩和されていないようです。

また、九州や四国など西日本を中心に、3月末までの飛散量が昨シーズン以上または昨シーズンに匹敵する飛散量となっているエリアでは、非常にツライ・ツライと回答した方の割合が、昨シーズンよりも多い結果となりました。東北北部や新潟県、滋賀県でも昨シーズンよりもツライという方の割合が多いエリアがあり、このエリアでは3月末までの飛散量は昨シーズンには及ばないものの、1日の飛散量としては昨シーズンに匹敵するくらいの飛散量になっている日もありました。さらに、症状報告と花粉数の変化から、花粉症は一度症状が悪化すると、花粉数が少なくなっても症状が治まるのに時間がかかるということが分かり、症状の悪化にはこの両者が影響しているものと考えられます。

◆今シーズンの都道府県別の花粉飛散傾向（沖縄県を除く）

都道府県	花粉飛散量						
	花粉シーズン開始日から 3月31日までの総飛散数			花粉シーズン開始日から花粉シーズン終了日 の総飛散数			
	今シーズン	昨シーズン	昨シーズン比	今シーズン (予想)	昨シーズン	昨シーズン比 (予想)	平年比 (予想)
北海道	シーズン前	シーズン前		3,470個	4,463個	80%	110%
青森	1,196個	1,882個	64%	5,130個	6,645個	80%	120%
岩手	1,439個	2,425個	59%	5,530個	6,384個	90%	100%
秋田	909個	1,007個	90%	3,370個	3,967個	90%	90%
宮城	1,259個	8,907個	14%	6,300個	12,683個	50%	100%
山形	1,674個	2,300個	73%	3,830個	6,744個	60%	100%
福島	2,702個	11,578個	23%	8,140個	15,757個	50%	100%
茨城	2,812個	15,642個	18%	5,200個	18,095個	30%	50%
栃木	2,239個	13,488個	17%	4,500個	17,604個	30%	50%
群馬	2,930個	15,402個	19%	5,800個	19,892個	30%	60%
埼玉	2,773個	17,659個	16%	5,000個	21,876個	20%	50%
千葉	1,818個	7,334個	25%	3,600個	9,116個	40%	60%
東京	1,482個	10,130個	15%	3,100個	12,822個	20%	40%
神奈川	1,613個	9,645個	17%	3,300個	12,313個	30%	40%
山梨	2,400個	13,175個	18%	4,800個	20,319個	20%	60%
長野	1,883個	6,688個	28%	4,500個	12,907個	40%	60%
新潟	1,529個	3,935個	39%	3,870個	7,257個	50%	90%
富山	2,231個	5,883個	38%	5,200個	8,032個	70%	100%
石川	1,353個	5,486個	25%	3,700個	7,288個	50%	70%
福井	1,720個	6,064個	28%	4,500個	8,725個	50%	80%
静岡	1,402個	8,275個	17%	3,000個	10,507個	30%	40%
愛知	1,407個	4,331個	32%	3,000個	6,996個	40%	50%
岐阜	1,606個	5,758個	28%	3,200個	10,529個	30%	50%
三重	2,259個	6,571個	34%	4,500個	8,584個	50%	70%
滋賀	1,815個	3,238個	56%	3,400個	6,475個	50%	70%
京都	1,020個	3,666個	28%	2,200個	8,256個	30%	40%
大阪	1,296個	2,770個	47%	2,500個	5,164個	50%	50%
兵庫	928個	4,155個	22%	2,100個	7,714個	30%	40%
奈良	1,740個	5,742個	30%	3,500個	10,895個	30%	50%
和歌山	1,169個	2,768個	42%	2,400個	4,493個	50%	60%
岡山	1,211個	2,666個	45%	2,500個	5,179個	50%	60%
広島	1,897個	3,949個	48%	3,500個	6,433個	50%	90%
鳥取	794個	5,076個	16%	2,200個	7,043個	30%	60%
島根	875個	4,875個	18%	2,200個	6,693個	30%	50%
山口	2,895個	4,027個	72%	4,500個	6,096個	70%	110%
徳島	4,689個	4,646個	101%	6,350個	7,266個	90%	170%
香川	1,243個	2,780個	45%	2,500個	4,565個	60%	60%
愛媛	2,394個	3,981個	60%	4,200個	5,643個	70%	110%
高知	4,624個	2,710個	171%	6,300個	4,175個	150%	180%
福岡	3,301個	4,515個	73%	5,100個	6,556個	80%	130%
佐賀	3,219個	2,409個	134%	4,000個	3,370個	120%	140%
長崎	3,941個	3,317個	119%	5,000個	5,267個	100%	140%
大分	7,144個	4,273個	167%	8,500個	5,967個	140%	180%
熊本	2,686個	3,125個	86%	4,050個	4,745個	90%	110%
宮崎	5,018個	3,393個	148%	6,000個	5,205個	120%	150%
鹿児島	2,492個	2,113個	118%	3,260個	2,756個	120%	80%

※飛散数：花粉観測機「ポールンロボ」が観測する花粉数で、都道府県内の平均を示す。北海道はシラカバ花粉の花粉数。

都道府県	花粉シーズン開始日		本格花粉シーズン開始日		本格花粉シーズン終了日		花粉シーズン終了日	
	今シーズン	昨シーズン	今シーズン	昨シーズン	今シーズン (予想)	昨シーズン	今シーズン (予想)	昨シーズン
北海道 (シラカバ)	4月下旬 (予想)	5月10日	5月上旬 (予想)	5月18日	6月上旬	6月12日	6月中旬	6月19日
青森	3月18日	3月6日	3月24日	3月15日	5月上旬	5月8日	5月中旬	5月12日
秋田	3月17日	3月10日	3月25日	3月15日	5月上旬	5月8日	5月中旬	5月12日
岩手	3月17日	2月28日	3月24日	3月5日	5月上旬	5月8日	5月中旬	5月12日
宮城	3月4日	2月17日	3月19日	2月28日	5月上旬	5月2日	5月中旬	5月13日
山形	3月15日	3月1日	3月18日	3月8日	5月上旬	5月4日	5月中旬	5月8日
福島	3月4日	2月17日	3月14日	2月28日	5月上旬	5月2日	5月中旬	5月13日
茨城	1月26日	2月5日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月1日	5月上旬	5月12日
栃木	1月26日	2月3日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月2日	5月上旬	5月12日
群馬	1月26日	2月3日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月2日	5月上旬	5月13日
埼玉	1月26日	2月3日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月1日	5月上旬	5月12日
東京	1月26日	2月3日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月1日	5月上旬	5月12日
千葉	1月26日	2月5日	3月4日	2月21日	4月下旬	4月25日	5月上旬	5月8日
神奈川	1月26日	2月5日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月1日	5月上旬	5月8日
山梨	1月31日	2月5日	3月4日	2月20日	4月下旬	5月6日	5月上旬	5月13日
長野	2月28日	2月17日	3月6日	2月28日	5月上旬	5月6日	5月中旬	5月13日
新潟	3月12日	2月26日	3月18日	3月7日	5月上旬	4月28日	5月中旬	5月8日
富山	2月28日	2月26日	3月12日	3月1日	5月上旬	4月25日	5月中旬	5月7日
石川	2月28日	2月26日	3月12日	3月1日	5月上旬	4月25日	5月中旬	5月7日
福井	2月28日	2月26日	3月12日	2月28日	5月上旬	4月25日	5月中旬	5月7日
静岡	2月16日	2月8日	2月28日	2月20日	4月下旬	4月25日	5月上旬	5月8日
愛知	2月20日	2月17日	2月28日	2月25日	4月下旬	4月27日	5月上旬	5月8日
岐阜	2月24日	2月17日	3月2日	2月25日	4月下旬	4月28日	5月上旬	5月12日
三重	2月20日	2月17日	2月28日	2月26日	4月下旬	4月27日	5月上旬	5月8日
滋賀	2月26日	2月17日	3月4日	3月1日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月8日
京都	2月26日	2月17日	3月12日	2月28日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月7日
大阪	2月24日	2月17日	3月4日	2月28日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月7日
兵庫	2月26日	2月17日	3月12日	2月22日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月8日
奈良	2月20日	2月11日	3月3日	2月22日	4月下旬	4月28日	5月上旬	5月8日
和歌山	2月20日	2月11日	3月3日	2月28日	4月下旬	4月15日	5月上旬	5月8日
岡山	2月24日	2月16日	3月8日	2月21日	4月下旬	4月25日	5月上旬	5月8日
広島	2月23日	2月16日	2月25日	2月22日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月7日
鳥取	2月28日	2月17日	3月12日	2月26日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月7日
島根	2月24日	2月17日	3月12日	2月25日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月7日
山口	2月19日	2月11日	2月23日	2月20日	4月中旬	4月23日	4月下旬	5月6日
香川	2月25日	2月17日	3月8日	2月21日	4月下旬	4月22日	5月上旬	5月7日
徳島	2月22日	2月16日	2月25日	2月21日	4月下旬	4月23日	5月上旬	5月8日
愛媛	2月24日	2月16日	2月25日	2月20日	4月下旬	4月21日	5月上旬	5月7日
高知	2月16日	2月16日	2月23日	2月20日	4月中旬	4月14日	4月下旬	5月7日
福岡	2月3日	2月11日	2月23日	2月17日	4月中旬	4月23日	4月下旬	5月7日
佐賀	2月19日	2月16日	2月24日	2月20日	4月中旬	4月15日	4月下旬	5月6日
長崎	2月16日	2月11日	2月23日	2月17日	4月中旬	4月23日	4月下旬	5月6日
大分	2月19日	2月11日	2月24日	2月17日	4月中旬	4月21日	4月下旬	5月6日
熊本	2月20日	2月14日	2月24日	2月17日	4月中旬	4月15日	4月下旬	5月6日
宮崎	2月1日	2月11日	2月22日	2月20日	4月中旬	4月23日	4月下旬	5月6日
鹿児島	1月31日	2月16日	2月20日	2月20日	4月中旬	4月14日	4月下旬	5月6日

※花粉シーズン開始日/終了日：敏感な人に症状が始める花粉飛散数10個/日を超える花粉飛散を2日以上観測した時/観測しなくなった時

※本格花粉シーズン開始日/終了日：花粉症の症状が始める花粉飛散数30個/日を超える花粉飛散を観測した日/観測しなくなった日。本格飛散終了日/飛散終了日はそれぞれ天気を考慮して判断する。

北海道は、花粉シーズン/本格花粉シーズンに入っていないため、それぞれ予想日を算出

◆花粉症の症状が“非常にツライ”または“ツライ”と感じる人の都道府県別割合

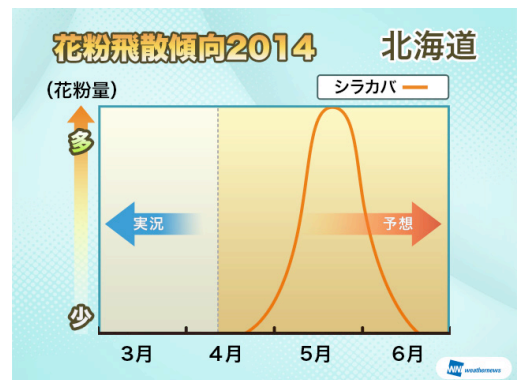
都道府県	今シーズン	昨シーズン
青森	23.9%	11.1%
秋田	11.2%	5.1%
岩手	13.4%	21.0%
山形	15.9%	21.9%
宮城	14.4%	29.1%
福島	17.2%	26.3%
栃木	30.2%	36.5%
群馬	22.7%	27.2%
茨城	25.4%	38.1%
埼玉	26.5%	29.7%
千葉	27.7%	29.8%
東京	26.9%	32.4%
神奈川	26.0%	33.0%
山梨	26.9%	33.8%
長野	17.8%	22.8%
岐阜	21.3%	30.9%
新潟	21.9%	20.6%
富山	12.1%	22.3%
石川	14.8%	24.4%
福井	12.2%	29.1%
静岡	29.4%	33.1%
愛知	25.7%	27.2%
滋賀	41.5%	23.8%

三重	25.4%	30.2%
和歌山	23.5%	25.8%
京都	23.7%	24.6%
奈良	24.1%	32.5%
大阪	27.0%	31.4%
兵庫	27.6%	33.2%
岡山	18.6%	25.3%
広島	26.4%	29.1%
鳥取	22.0%	23.0%
島根	17.0%	22.6%
山口	31.4%	32.0%
香川	27.9%	22.1%
徳島	21.4%	25.0%
愛媛	27.5%	32.5%
高知	42.0%	24.7%
福岡	33.4%	26.2%
佐賀	37.1%	13.5%
長崎	21.5%	25.7%
大分	32.4%	16.5%
熊本	24.1%	26.9%
宮崎	29.9%	29.7%
鹿児島	23.0%	16.0%
全国平均	24.3%	26.2%

※本調査は、2月1日～3月31日までに、花粉症の方に花粉症の症状を“非常に辛い”“辛い”“やや辛い”“大丈夫”から選択してもらい、症状が出た方（“大丈夫”以外を回答した方）の中で“非常に辛い”“辛い”と回答した方の割合を日平均した結果
※沖縄県は目立った花粉がないため、北海道は3月31日までに本格花粉シーズンが開始していないため除く

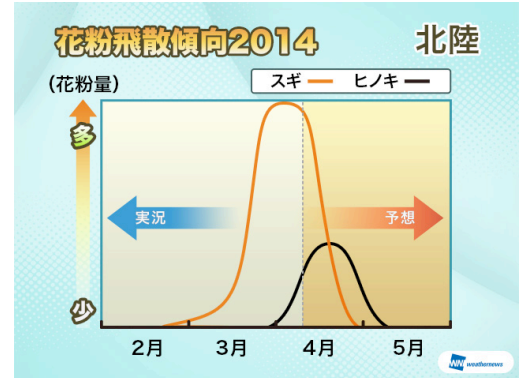
◆各エリアの見解（4月10日時点）

北海道（シラカバ花粉）
<p>4月は春らしく、三寒四温を繰り返しながら、段々と暖かい日が増えていき、昨シーズンと同様に、シラカバ花粉の飛散開始は4月下旬になりそうです。5月になると一段と暖かく、春本番の陽気となる日が増えて、特にゴールデンウィーク頃からは花粉の飛散量が多くなっていきます。シラカバ花粉のピークは5月中旬～下旬で、5月いっぱいには飛散量が多くなる日がありそうです。なお、2014年の飛散量は昨シーズンの80%前後ですが、平年より1割くらい多く飛散する予想です。また、道南では一部で5月はじめにかけてスギ花粉が飛ぶことがあります。飛散量は比較的少なくなりますが、対策をしておくとう安心です。</p>



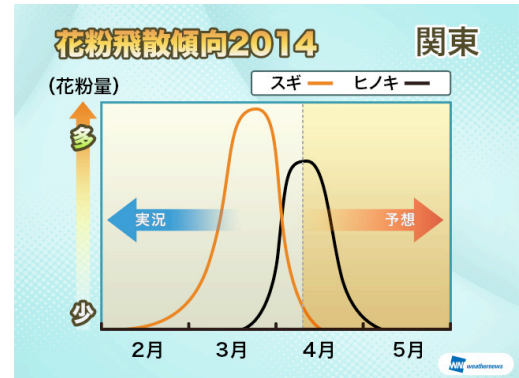
<p style="text-align: center;">東北北部</p> <p>今シーズンは3月前半までの寒さや雪の影響で、飛散開始が昨年・平年より1~2週間ほど遅くなりましたが、3月下旬からの暖かさによって、スギ花粉の飛散量が増えてきています。東北北部では、これから4月下旬にかけてスギ花粉の飛散量がピークになり、晴れて気温が高い日や、風が強い日を中心に非常に多い花粉が飛ぶ恐れがあります。また、3月前半までの寒さの影響で飛散開始が遅れていたため、3月末までの飛散量は昨シーズンより少なくなっていますが、今後飛散量が増加し、今シーズンのスギ花粉の飛散量は昨シーズンの80~90%、平年の90~120%の飛散量となる予想です。万全の対策をして過ごして下さい。なお、東北北部ではヒノキ花粉はほとんど飛散しない予想です。</p>	
<p style="text-align: center;">東北南部</p> <p>今シーズンは2月中旬までの寒さの影響で、飛散開始が昨年・平年より2週間ほど遅くなりましたが、3月下旬からの暖かさによって、スギ花粉が多く飛んでいます。東北南部ではスギ花粉のピークとなっており、4月下旬までは晴れて気温が高い日、風が強い日を中心に非常に多い花粉が飛ぶ恐れがあるので、注意が必要です。また、2月中旬までの寒さの影響で昨シーズンよりピークが遅くなっているため、3月末までの飛散量も昨シーズンより少なくなっていますが、今後も引き続き大量飛散に注意が必要です。なお、今シーズンのスギ花粉の飛散量は昨シーズンの50~60%、平年と同程度の飛散量となる予想です。万全の対策をして過ごして下さい。なお、東北南部ではヒノキ花粉はほとんど飛散しない予想です。</p>	
<p style="text-align: center;">北陸・甲信北部</p>	

2月中旬までは厳しい寒さとなったため、今シーズンは平年より飛散開始がやや遅れ、2月末から北陸西部・長野県でスギ花粉が飛散し始めました。ただ、その後は再び寒くなったため、新潟県での飛散開始は3月中旬、北陸西部の本格飛散開始も3月中旬となり、昨年・平年より1～2週間ほど遅い本格化となりました。3月中旬以降は暖かい日や南風が強まる日が増えてきたため、花粉の飛散量が多くなり、3月下旬からスギ花粉のピークとなっっています。現在はスギ花粉の飛散量がピークを越えつつありますが、4月中旬までは引き続き注意が必要です。また、元々このエリアは北ほどヒノキ花粉が少ない地域ですが、5月上旬まではヒノキ花粉にも注意が必要です。3月末までのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨シーズンの20～40%と少ない状況です。ただ、昨シーズンよりもピークがやや遅れていることも考慮すると、今シーズンのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨シーズンの40～70%となる予想です。また、平年の60～70%前後のところもありますが、80～100%となるところもあるため、引き続き注意が必要です。



関東

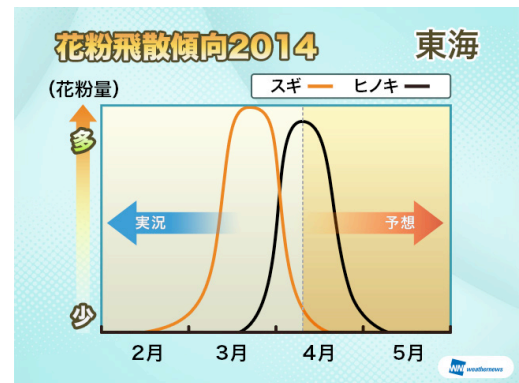
関東地方では、1月前半は厳しい寒さが続いたものの、寒さが緩んだ1月終り頃に花粉シーズンに突入しました。ただ、その後の寒さや雪の影響で、飛散量は少ないまま1か月前後経過しました。2月下旬になって寒さが緩んだタイミングで、飛散量が増え始め、3月上旬にスギ花粉の本格シーズンに突入しました。その後は、晴れて暖かい日や風が強い日を中心に飛散量が多くなりました。スギ花粉のピークは3月中旬～下旬で現在は減少中で、現在はヒノキのピークとなっています。ヒノキ花粉が少なくなる4月下旬までは引き続き、注意が必要です。また、3月末までのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨シーズンよりもかなり少なく、今シーズンの飛散量は昨シーズンの20～40%、平年の40～60%となる予想ですが、晴れて風が強い日などは大量飛散となる恐れがあります。3月末までの飛散数は昨シーズンよりかなり少ない割に、症状は昨シーズンから大きく緩和されていないので、引き続き花粉の飛散・症状の悪化に注意が必要です。



東海・甲信南部

今シーズンは2月中旬までの寒さの影響でスギ花粉の飛散開始が遅れ、昨年・平年より1~2週間ほど遅い2月中旬から花粉シーズンに突入したところが多くなりました。その後、2月末~3月はじめに暖くなったタイミングで、本格シーズンに突入しました。スギ花粉のピークは3月中旬~下旬で現在は減少中で、ヒノキ花粉の飛散量がピークとなっています。今後も晴れて暖かい日や風が強い日を中心にヒノキ花粉が多くなるため、4月下旬までは引き続き注意が必要です。

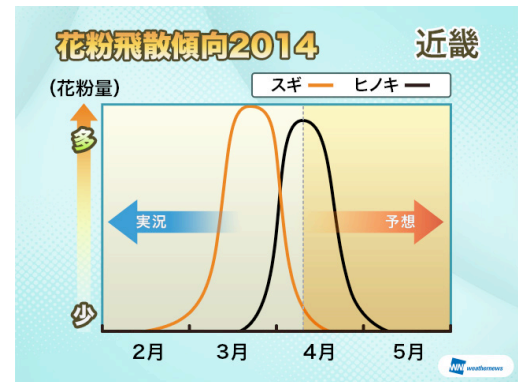
また、3月末までのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨シーズンよりもかなり少なく、今シーズンの飛散量は昨シーズンの20~50%、平年の40~70%となる予想ですが、晴れて風が強い日などは大量飛散となる恐れがあります。3月末までの飛散数は昨シーズンよりかなり少ない割に、症状は昨シーズンから大きく緩和されていないので、引き続き花粉の飛散・症状の悪化に注意が必要です。



近畿

今シーズンは2月中旬までの寒さの影響でスギ花粉の飛散開始が遅れ、昨年・平年より1週間ほど遅い2月下旬から花粉シーズンに突入したところが多くなりました。その後、3月上旬に本格シーズンに突入しましたが、近畿地方でスギ花粉の飛散量が多くなってきたのは、暖かい日が増えた3月中旬となりました。スギ花粉のピークは3月中旬~下旬で現在は減少中ですが、今はヒノキ花粉のピークとなっています。今後も晴れて暖かい日や風が強い日を中心にヒノキ花粉が多くなるため、4月下旬までは引き続き注意が必要です。

また、3月末までの飛散量は、昨シーズンよりもかなり少なく、今シーズンのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は昨シーズンの30~50%、平年の40~70%となる予想ですが、晴れて風が強い日などは大量飛散となる恐れがあります。3月末までの飛散数は昨シーズンよりかなり少ない割に、症状は昨シーズンから大きく緩和されていないので、引き続き花粉の飛散・症状の悪化に注意が必要です。



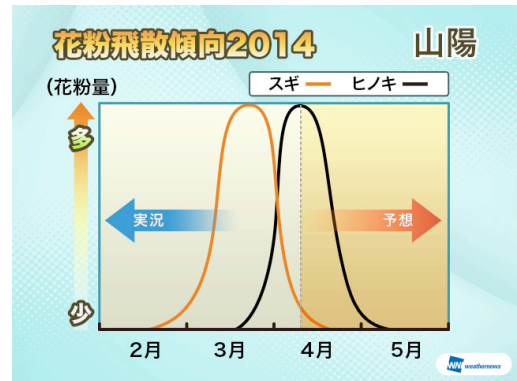
山陽 (山口県除く)

今シーズンは2月中旬までの寒さの影響でスギ花粉の飛散開始が遅れ、昨年・平年より1週間ほど遅い2月下旬から花粉シーズンに突入しました。2月下旬は平年を大きく上回るほど暖かかったため、その後数日で本格シーズンに突入し、飛散量が増えていきました。

スギ花粉のピークは3月中旬～下旬で、現在は減少中ですが、現在ヒノキ花粉のピークとなっています。今後も晴れて暖かい日や風が強い日を中心にヒノキ花粉が多くなるため、4月下旬までは引き続き注意が必要です。

また、3月末までのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨シーズンよりも少なく、今シーズンの飛散量は昨シーズンの50%前後となり、岡山県では平年の60%前後、広島県では平年並み（平年の90%）の飛散量となる予想です。

3月末までの飛散数は昨シーズンより少ない割に、症状は昨シーズンから大きく緩和されていないので、引き続き花粉の飛散・症状の悪化に注意が必要です。

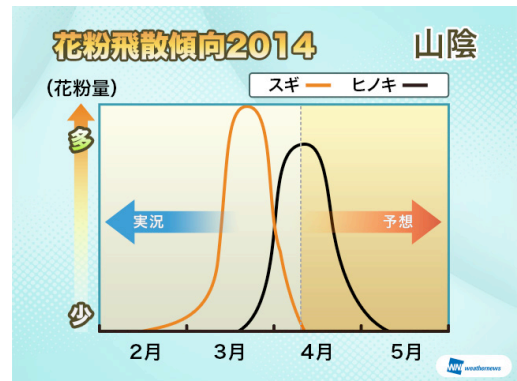


山陰

今シーズンは2月中旬までの寒さの影響でスギ花粉の飛散開始が遅れ、昨年・平年より1週間～10日ほど遅い2月下旬から花粉シーズンに突入しました。また、本格的な飛散も、暖かい日が増えてきた3月中旬以降となりました。

スギ花粉のピークは3月中旬～下旬で現在は減少中で、今はヒノキ花粉のピークとなっています。今後も晴れて暖かい日や風が強い日を中心にヒノキ花粉が多くなるため、4月下旬までは引き続き注意が必要です。

また、3月末までの飛散量は、昨シーズンよりもかなり少なく、今シーズンのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は昨シーズンの30%前後、平年の50～60%となる予想です。3月末までの飛散数は昨シーズンより少ない割に、症状は昨シーズンから大きく緩和されていないので、引き続き花粉の飛散・症状の悪化に注意が必要です。

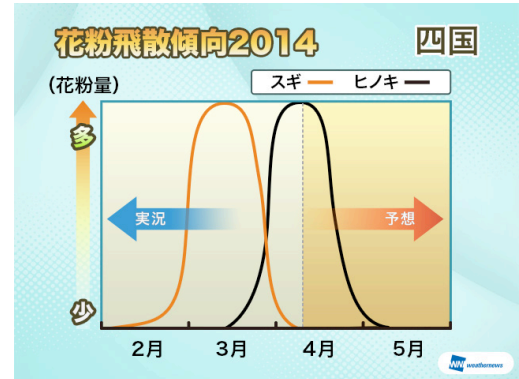


四国（高知県除く）

今シーズンは2月中旬までの寒さの影響で瀬戸内側を中心にスギ花粉の飛散開始が遅れ、昨年・平年より1~2週間ほど遅く2月下旬から花粉シーズンに突入しました。ただ、2月下旬は平年を大きく上回るほど暖かかったため、その後数日で本格シーズンに突入し、飛散量が増えていきました。

スギ花粉のピークは3月中旬で現在は減少中ですが、今はヒノキ花粉のピークとなっています。今後も晴れて暖かい日や風が強い日を中心にヒノキ花粉が多くなるため、4月下旬までは引き続き注意が必要です。

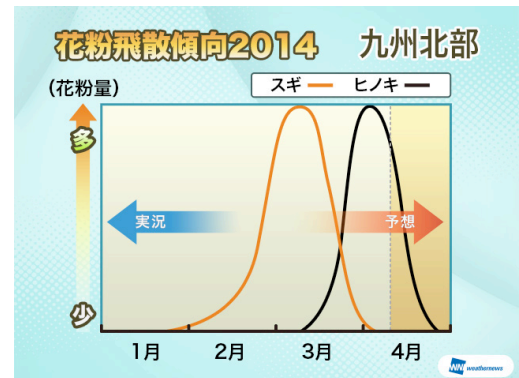
3月末までの飛散量は、香川県など瀬戸内側を中心に昨シーズンよりかなり少ない状況で、太平洋側に近いほど飛散量が多い傾向にあります。今後のヒノキ花粉の飛散も含めると、今シーズンのスギ・ヒノキ花粉の飛散量は、少ない所で昨シーズンの60~70%、多い所で90%前後となる予想です。また、平年と比べると、太平洋側に近いほど飛散量が多く、愛媛県では110%、徳島県では170%、香川県では60%前後となる予想です。3月末までの飛散数は昨シーズンより少ないところもあるものの、症状は昨シーズンから大きく緩和されていないので、引き続き花粉の飛散・症状の悪化に注意が必要です。



九州北部・山口県・高知県

九州北部周辺では、1月中旬までは厳しい寒さが続いたものの、寒さが緩んだ1月終り~2月はじめ頃からスギ花粉が飛散しはじめた所がありました。その後、再び寒気が強まったり、低気圧などの影響で雨や雪が降ったりしたため、花粉の飛散量はあまり多くなりならず、本格的なスギ花粉の飛散は、暖かくなった2月下旬になってからとなりました。これは、昨年よりやや遅いものの、平年並みの時期となります。その後、3月上旬にかけて平年を大きく上回る程の暖かさとなったため、飛散量は増加し、スギ花粉のピークとなりました。ヒノキ花粉の飛散量のピークは3月下旬からで、現在はピークを越えつつあります。今後もヒノキ花粉が多く飛散することはありますが、徐々に少なくなり、4月下旬にはシーズン終了となりそうです。

なお、3月末までの飛散量は昨シーズンより多い県が多く、今後の飛散量も考慮すると、昨シーズンの80~100%の県もありますが、それ以上の120~150%となる県もある見通しです。また、平年より多い飛散量となる見通しで、少ない所でも平年の110%、多い所では平年の180%となる見通しです。3月末までの症状も昨シーズンより悪化している方が多いようなので、4月下旬までは引き続き花粉の飛散に注意が必要です。



九州南部

九州南部では、1月中旬までは厳しい寒さが続いたものの、寒さが緩んだ1月おわり～2月はじめ頃に昨年・平年より10日～2週間前後早くスギ花粉が飛散しはじめました。その後再び寒気が強まったり、低気圧などの影響で雨が降ったりしたため花粉の飛散量はあまり多くなり、本格的なスギ花粉の飛散は暖かくなった2月下旬になってからとなりました。その後、3月上旬にかけて、晴れて暖かい日や風が強い日を中心に飛散量が多くなり、スギ花粉のピークとなりました。また、ヒノキ花粉のピークは3月下旬からで、現在はピークを越えつつあります。今後もヒノキ花粉が多く飛散することはありませんが、徐々に少なくなり、4月下旬にはシーズン終了となりそうです。

なお、3月末までの飛散量は昨シーズンの同時期より多くなっており、今後の飛散量も考慮すると、スギ・ヒノキ花粉の飛散量は、昨シーズンの120%前後となる見通しです。また、鹿児島県では平年の80%前後、宮崎県では150%前後となる予想で、症状も昨年より悪化している方が多いようなので、4月下旬までは引き続き注意が必要です。

